

平成 28 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学部名 国際コミュニケーション学部

フリガナ ナガサキ ユヰ
氏名 長澤 唯史

研究期間 平成 28 年度

研究課題名 日本の大衆文化におけるポストモダン・アイデンティティ表象の研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	長澤 唯史	国際コミュニケーション学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

本研究は、日本のポピュラーカルチャーにおけるポストモダン・アイデンティティとアイデンティティ・ポリティックスをつなぐ新たな方法を模索するものである。

既存の文化研究（カルチュラル・スタディーズ）においても、音楽を中心とする大衆文化に対して、アイデンティティ・ポリティックスの立場からのアプローチは長らく行われてきた。だがその学問的成り立ち（マルクス主義との連携）から、ポストモダンの／後期資本主義的成果への評価は厳しかった。この両者の最良の成果を接合することで、新たな文化研究／日本研究への道を開くことが、本研究の目指すところである。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

以下の 3 点を具体的な分析対象とした。

- 内外のポップカルチャーにおけるポストモダン・アイデンティティのあり方の分析・評価：改変可能な自己や世界のあり方について、SF 史全般における発達を各種資料や海外での資料調査などから検証する。
- 日本のポピュラー音楽における構築的アイデンティティの検証：「構築的アイデンティティの興隆」という点から日本のポピュラー音楽の歴史と現状を再検討する。
- 現代日本のポップカルチャーにおける構築的アイデンティティとアイデンティティ・ポリティックスの接続可能性の検討：世界的文脈でのポストモダニズムの再評価と、その実践例としての現代日本のポップカルチャーの分析を行う。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

ポストモダニズムは西洋哲学における实在論と認識論の接続を目指す哲学思想であったが、日本では認識論的変革の手段としてのみ導入され、その結果あらゆる価値の相対化の思想であるという誤解が定着してしまった。ポピュラーカルチャー批評においても東浩紀『動物化するポストモダン』(2001)や宇野常寛『ゼロ年代の想像力』(2008)などによって、そのような誤ったポストモダニズム理解が広められてしまった。

それに対し、近年注目を集めているカンタン・メイヤーらの思弁的实在論 (Speculative Realism) に基づいた新たな文化批評の可能性が、とくに北米のSF研究者の間で真剣に議論され、日本でも批評家の岡和田晃が提唱し実践している。实在は人間の認識との相関でのみ立ち現れるという相関主義を批判し实在の新たなあり方を模索するその思想は、カントを媒介として Joseph Tabbi, *Postmodern Sublime* (1995) などの「ポストモダンの崇高」論と接続される。岡和田はその表象として H. P. Lovecraft らの幻想文学や現代SFを論じているが、それだけでなく現代文学や現代芸術、大衆文化などの多くをこの思想から検討することで、20世紀以降の現代文化に共通する現実認識や戦略なども明らかになる。

現在のところまだ日本で思弁的实在論を積極的に論じ、それを援用する批評や研究はほとんどない。だが日本のSFやアニメなどのポップカルチャー・コンテンツや現代のロックミュージックなどをこの点から論じることで、さらにそれが大衆的表象を超えて現代日本文学と繋がることもはっきりと見えてきた。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①思弁的实在論	②ポストモダニズム	③現代文学	④SF
⑤ロック音楽	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

- ① Tadashi Nagasawa, "The Reception of American Science Fiction in Japan," *Oxford Research Encyclopedia of Literature (OREL)*, Dec. 2016, <http://literature.oxfordre.com/view/10.1093/acrefore/9780190201098.001.0001/acrefore-9780190201098-e-166?rskey=xgEgEK&result=5>
- ② 長澤唯史、「不幸な変り者の系譜 ボブ・ディランとアメリカ詩の伝統」、『文藝別冊 ボブ・ディラン マイ・バック・ページズ』、134-144、2016年12月、河出書房新社
- ③ 長澤唯史、「LA/アメリカを演じ続けること イーグルスとアメリカン・アイデンティティ」、『文藝別冊 イーグルス』、94-103、2016年9月、河出書房新社
- ④ 長澤唯史、「新たなエルサレムの夢 EL&P とポストモダンの崇高」、『文藝別冊 エマーソン・レイク&パーマー』、82-91、2016年7月、河出書房新社
- ⑤ 長澤唯史、「普遍の調べを追い続けて カルロス・サンタナのアイデンティティと音楽」、『文藝別冊 サンタナ』、2017年3月(発行予定)、河出書房新社、他2件